2026/9/15(火)
誘電体分科インフォーマルミーティング議事録
運営委員：永井　大石

日時と会場・出席者　15 名程度
9 月 15 日　17:30~19:30 東京大学駒場キャンパス M1322

1. 周知・報告事項
　初めに今年の春季大会の領域 10 の IM ででた領域再編について運営委員の永井先生からの共有があった。その後、今回の物理学会の領域 10 における発表件数の共有があった。
　今回、昨年度から追加されたキーワードであるカイラルフォノン、カイラル構造に関係する発表が誘電体とフォノンにあったことから、誘電体とフォノンの合同セッションを行った。(これは IM 後のことであるが、カイラル、フェロイクスの誘電体・フォノンの合同セッションは数人の立ち見が出る程度には盛況であった。)
　新しいキーワードを追加したことにより、それを使用した発表が増えている。また、今回の発表をみるとフェロアキシャルが入った発表タイトルが増えている。これは領域 10 にフェロアキシャルという言葉が根付いてきている？ということで、フェロアキシャルというキーワードを追加したいという提案が永井先生から行われた。

領域編成に関する会場からのコメント
(永井先生)
今回カイラルフォノン、カイラル構造のキーワードによる応募が誘電体、フォノンに分かれていたので、運営委員のほうで誘電体とフォノン分科での合同セッションをおこなった。
(野田先生)
歴史的に見れば誘電体+フォノンは昔から一緒にやっている。問題ないと思うというコメントがあった。
(永井先生)
領域 3、8 に誘電率測定などがある。こういう層を領域 10 に取り込むにはどうしたらいいか。
会場との議論から、領域 3、8 と協力、領域 10 の独自性を保ちつつうまくやるとなった。
(中島先生)
領域 5 の IM にちょっと出たとき、領域 5 でも領域再編の話があった。
(大和田先生)
再編は領域 10 だけの問題だけなく、学会全体の話。
前回までの領域代表の筒井先生から再編の話ははじまった。
領域再編ワーキンググループが物理学会上層部で立ち上がっている。

領域をプログラムユニットにする案がでている。
本来領域は 5 年に 1 回見直すものだったが、30 年近く続いている？
野田先生によると今の領域になったのは高温超伝導のあとらしい。
(大和田先生)
現在は骨子案であり、決定案ではない。
領域の IM で検討し、9/30 までにキーワードの提出。
(野田先生)
プログラムユニットになるのは領域制前に戻っている。
野田先生、是枝先生、中島先生、鹿内さん、符先生
今後の領域再編に関する議論が行われた。

講演キーワードに関する会場からのコメント
(永井先生)
フェロアキシャルが領域 10 で根付いてきた。キーワードとしてフェロアキシャルをいれたい。
(鹿内さん)
結晶場をキーワードにいれたい。
(符先生を中心に)
世界的に流行している低次元強誘電体などのキーワードがない。
世界で流行している強誘電体関係のキーワードを前もって入れておくのが大事ではないか。
(永井先生)
使われていないキーワードが半分くらいあり、今回追加されて早速使われているカイラルフォノンやカイラル構造がかなりスクロールしないとキーワードで出てこない。
これを機に思いっきり、キーワードを変えるのはどうか。
(谷口先生)
キーワードを追加するのであれば、若手が集まり、研究者同士のネットワークができるようなものがよい。
応物やセラ協には 30 代の若手研究者がたくさんいる。
ここの若手を少しずつ連れてくるとよいかもしれない。
とにかく、発表して手ごたえのある楽しい議論の場があれば人が集まるはず。
こういう人たちがいつ来ても困らないように、前もってキーワードを準備しておく。
(符先生)
物理学会ではあまり見ないが、応物やセラ協ではハフニアが盛り上がっている。
(谷口先生)
最初は物理学会とセラ協をいったりきたりしていた。
そのうち、セラ協のほうが懐が深いことから、物理学会<セラ協になり、人の参加人数に偏

りがでてきた。
セラ協は合成系が強いが、物理学会ほど理論と実験、特に測定系が強くはない。
ここが強いのが物理学会なので、この方向でいくといいかもしれない。
まずは、個人レベルで応物で物理学会でも発表できそうな人を連れてくる。

2. 今回の領域 10 の発表件数(計 76 件)と学生優秀発表賞申込件数

学生優秀発表賞に関して、申請件数に対して、応募要件を満たしていないものが複数件あったという報告が永井さんからなされた。今回は誘電体のメーリングリストを通じて、運営委員の永井先生から事前告知をした。しかしながら、申請は 26 件あったが、応募要件を満たしているのは 7 件であった。誘電体分科だけでみれば、5 件中 2 件しかなかった。

会場からのコメント
(符先生)
学生優秀発表賞の制限は、3 回発表が緩和され、2 回になった。
現状を見るに、審査基準を定めて 1 回目の発表でも応募できるようにすべきかもしれない。
ただし、運営委員の負担になる可能性がある。
会場での議論で、教員側に通知する必要があるや学生個人の責任という声もあった。
応募できなかった学生の教員には運営委員から連絡を入れる？(物理学会終了後、運営委員の方から該当の学生が所属する先生方にメールをした。)

3. 審議事項

会場からの自薦・他薦はなかったため、運営委員のほうから次々期運営委員として名古屋工業大学の瀧川佳紀先生を推薦し、賛成多数で了承された。

4. 懇親会

19:30 より、渋谷駅近くの「清流　初つぼみ」にて懇親会を行った。教員 11 人、学生 5 人が参加し、非常に充実したものとなった。





5.　国際学会について

16th European Meeting on Ferroelectricity (EMF16)

日時：　2029 年

場所：　Vilnius, Lithuania

第 16 回 国際強誘電体会議　IMF 2027
2027 年 6 月 6 日ー10 日
プラハ，チェコ．Jiří Hlinka (Chair)
https://imf2027.fzu.cz/

会場からの国際学会に関する共有
(野田先生)
KJCFE-15 が今年 8 月に韓国の Daejeon にて行われた。
次は 2 年後にソウルで行われる。

(大和田先生)
IWRF2026 が今年の 5 月に島根で行われた。
次は 2028 年 6 月にフランス・パリで行われる。

(符先生)
日中強誘電体会議が来年 8 月に行われる。